

立山東面の尾根を狙う

## 北アルプス 丸山中央山稜 (中退)、 黒部別山北峰

【日程】2016年4月29日  
～5月2日  
【メンバー】松本 (L)  
、栗原、小森  
【地形図】黒部湖・立山・十  
字峡  
【記】松本理恵

当初、五竜岳の東谷山尾根を下降して黒部川を横断、ガンドウ尾根を登り剣岳へ至る黒部横断を栗原さんが計画していたが、今年は寡雪なので五竜岳へ下見に行った。山頂から見えたのは黒々とした東谷山尾根とガンドウ尾根だった。それを見た栗原さんは今年はやめようと言ひ、私はたわしの中でもがくありんこ (自分たち) を想像した。そして、以前から私が行きたかった奥木挽山と薬師見平をつなぐ上ノ廊下横断案に変更。その後、天気予報は悪化したので計画を縮小して、丸山中央山稜から真砂尾根、黒部別山の周遊にした。入ったばかりの小森くんを誘ってしまい、きつい山行になってしまったようで申し訳ないと思っている。

4月29日 (金) 雪のち曇り

待ちに待ったGWの山行当日になった。激務を終え、ムーンライト信州に乗り込み、信濃大町へ向かった。夜明けとともに信濃大町に着き、バスで扇沢に向かう。扇沢に着くなり天気が荒れはじめ、やや不安な気持ちになったが、黒部ダムに着くなり天気が落ち着き、安心して内蔵助平に向かう。

内蔵助谷に入るなり、私のペースが落ちる。栗原さんと松本さんは平地と変わらないスピードで歩いていく。慣れない泥壁や藪に苦戦しながら2人について行くのが精一杯だった。これがトマの人達かと関心を抱きながら、自分の実力不足を憎んだ。

内蔵助谷を抜けるころには2人についていける体力もなくなってしまい、内蔵助平から少し上がったところで行動を打ち切り、この日の幕営となった。予定していた丸山中央山稜1954mの御前谷乗越か内蔵助谷乗越2210mでの幕営地よりもはるかに離れた場所での幕営となってしまった。完全に私が足でまといになってしまっていた。少し前までは重い荷物を背負ってラッセルもしていたし、体力にも自信はあるほうではあったが、社会人となり、デスクワークばかりで、日常の運動量が減ったことにより、気がつかないところで体力が落ちていた。出発前まで、憧れの黒部だとかはしゃいでいたが、完全な準備不足と体力不足で早くも2人の足を引っ張ることとなってしまった。(小森記)

4月30日 (土) 晴れ

天気は快晴で夕方から崩れる予報だった。ただし風が強いとも、夕方からさらに風が強くなるとも。今日は富士ノ折立を越えて真砂尾根の下降、つまり今回の核心部。4時にテントを撤収して、薄明るくなるなか、御前谷乗越に向けて出発する。30分ほどのラッセルで乗越1954mに到着。ここで丸山中央山稜に乗った。2279mピークへさらに登りが続く。栗原さん、松本が交代でラッセルして、標高をじわじわと上げていく。振り返ると小森くんがどんどん小さくなっていく。区切りのいいところで休憩しながら待つが、その間に汗が冷えて、ぶるぶる震える。2279mピークを越えて60m下ると内蔵助谷乗越。ここで栗原さんと2600m付近に8時に到着しない場合は下山することに決める。

見上げれば屈曲して龍の背のような中央山稜がかっこいい。真っ青な空をバックに頂稜部は雪炎が舞う。やはり風が強い。左の立山東尾根を歩く人が見えた。あっちにしておけばよかったかなあ、と思ってもあとの祭りである。小森くんのペースが落ちているので栗原さんが小森くんにぴったりついて歩いていく。私が先にゆっくりとトレースをつけて行く。7時25分、2500m付近にダケカンバある小さな平でふたりが登って来るのを見ながらこれからの行動について考える。ここから先、雪壁の登りがあり、緩やかな稜線のあと、山頂への岩峰の登りになる。たぶんロープを出すだろう。このペースで12時には富士ノ折立を越えられるだろうか。越えた先、山頂から真砂岳へは200mほどの下りになる。あの下りは夏でもガラガラしていて悪い。雪がついてイヤらしいだろうから、下り歩行が苦手な小森くんは時間がかかるかもしれない。真砂尾根の幕営予定地に着けない場合は内蔵助山荘の裏にテントを張れるだろうか。夕方からさらに強まる風、3000mの稜線での幕営…それだけは避けたい。ふたりがやってきたところで「下りましょう」と告げた。まだ8時にはなっていないが、山頂を越えたあと、天候悪化と時間の勝負になってしまう。焦るとろくなことがない。栗原さんも同意してくれた。2400m付近から緩やかな斜面を内蔵助平へ下っていく。スキーで滑ったら気持ちよさそうな斜面だった。振り返ると憧れの龍の背は遠のいていく。しょうがない自業自得である。また来ればいいさ。そのときは絶対登る。

残雪の内蔵助平に泊まる。ここは思い出の地、私の北ア聖地ベスト5に入る。とっておきの場所に泊まれる。いい場所はないかな〜とのんびり歩く。ハシゴ谷乗越に近く、水も取れるいい場所があったのでそこでテントを張り、ポカポカの外でさっそく宴会。男性の2パーティが横を通り過ぎる。八ツ峰に登るらしいが、明日は天気が悪いはずだが。12時30分ごろ、急に空が暗くなったかと思ったら、雨がバラバラと降り出した。慌てて酒を持ってテントに飛び込む。予報より早く天気が崩れはじめた。下山しておいてよかった…。夜、ラジオを聞いていたら立山での遭難を伝えていた。雄山で男女1人ずつが天候悪化で下山できず、救助要請をしたようだ。（松本記）

#### 5月1日（日）明け方雷鳴、雨そして曇り

明け方、起床前に目が覚めてラジオ深夜便を聞いていると、耳の中でバリバリと音がした。一瞬外が光ると、ドーンバキバキ！ 轟音が響いた。腹に響く音に思わず起き上がる。続けて3発の雷鳴。いまごろ稜線にいたらどうなっていただろう…。朝食後も雨はやまない。今日は聖地・黒部別山に泊まろうと思っていたのだ（ここもベスト5のひとつ）。しばらく様子見で…とすでに出発準備は完璧だったが、ごろりと横になったが最後、ずるずるとシュラフをザックから引きずり出し、黒別は明日行けばいいな、戦士も休息が必要です。自分に言い訳して、「今日は沈殿日にしましょう」とリーダー特権で決めてしまう（やったぜ！）。ラジオを聞いていると、富士ノ折立でも男性2人が下山できずにいるという。あのまま行っていたら、自分たちも同じ運命をたどっていたかもしれない。※雄山の2人は無事下山したが、富士ノ折立の2人は山頂で死亡が確認された。（松本記）

#### 5月2日（月）曇りのち晴れ

今日こそは絶対登頂するぞと固い決意の元、暗いうちに出発する。ハシゴ谷乗越までは、昨日入山したパーティのトレースがあり、さくさくと進める。日帰り装備のおかげで、小森君もバテずについてきている。乗越にはテントが張られていた。まだ少し薄暗さの残るなか、松っちゃんが熱心

に内蔵助平を眺めては写真に収めている。思い入れがあるのだろう。

ハシゴ谷乗越からはトレースも無くなるが、所々雪が切れ藪となるものの、概ね雪を拾えて、順調に歩を進める。稜線に出ると、木々の間から劔岳が見えた。劔岳はいつ見ても格好いい。黒部別山の稜線からは、北に進路を取り、本峰、そして北峰を踏みに行くことにした。南峰は、いつか大タテガビンから踏みに行くときのために残しておこう。本峰をあっさり越え、北峰にたつが、まだ少し尾根は先に続いているようである。劔沢見えないかなあ〜と、少々藪を漕いで突端まで進むと、劔沢こそ見えないものの、黒部横断で下ろうと思っていた尾根を見ることができ、次こそあそこに、の思いを新たにす。北峰までもどって、今度は劔岳の尾根をじっくり観察、いい展望台だ。いつまでも見とれていたいが、今日中に黒部ダムまで戻る予定だったので、さっくりと引き揚げることにした。途中、乗越にテントを張っていたパーティとすれ違う。乗越では、私だけちょっと遊び心を出して尻セードで下ってみる。楽しいが、すぐに斜度が緩やかになってしまい、歩きとたいして速度が変わらなかったようだ。天場で荷物を撤収し、内蔵助谷を下って行くと、入山した時よりも明らかに雪が少なくなっている。もう雪山シーズンも終わりだなあ、沢のシーズンが始まるなあ、と早い春を思いながら、ポクポクと黒部ダムまで歩いた。(栗原記)

#### 【コースタイム】

4月29日(金) 黒部ダム駅(8:00)～黒部川徒渉(8:35)～丸山沢出合(9:15)～内蔵助平(14:25)～1730m付近C1(14:45)

4月30日(土) C1(4:00)～内蔵助谷乗越(6:30)～2500m付近(7:40)～内蔵助平1770m付近C2(10:30)

5月1日(日) 沈殿日

5月2日(月) C2(4:00)～ハシゴ谷乗越(4:40)～黒部別山中央峰(6:15)～北峰(6:30)～さらに北の2250m付近(6:40)～C2(8:30)～丸山沢出合(11:30)～黒部ダム駅(13:00)



黒部別山から立山東面に延びる3本尾根を見る。左から立山東尾根、中央が丸山中央山稜と富士ノ折立、右が真砂岳と真砂尾根